モジュラ車いす（CCTA コード　１２２１３３）

レボ 取扱説明書

コード No. 2015.04

目 次

1．概 要

この度は車いす「レボ」をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には必ず『取扱説明書』をよくお読み頂き、正しく安全に使用してください。
車いすの調節は、販売店もしくは弊社までお問合せください。

ご使用の前に
「レボ」は屋内・屋外の両方でのご使用を目的として作られた折り畳み可能な手動車いすです。
座面は高さ、角度の調節、バックサポートは高さ、角度、形状の調節、フットレッグサポートは高さと角度の調節を行うことができます。
また、ニーズの変化に応じて調節することができ、豊富なオプションパーツの選択も可能です。

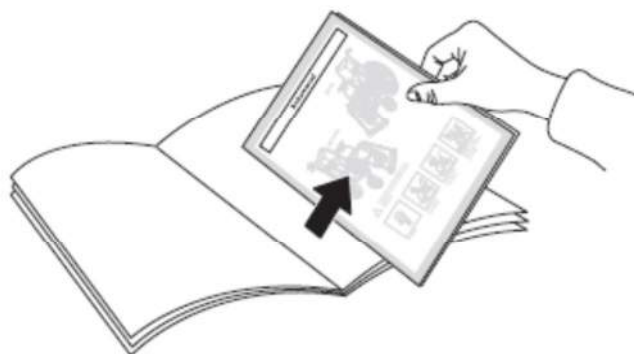
警告	この表示項目を守らずに誤った取扱をすると重大な事故につながり、使用者が重傷を負う恐れがあります。

注意	この表示項目を守らずに誤った取扱をすると使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。

警告	フットサポートの上に立たないでください。 前方へ転倒し、ケガをする恐れがあります。
	車いすを持ち上げる際は、アームサポート、フットレッグサポートを持たないでください。
注意	車いすを操作、調節する際は注意してください。
	車いすの折り畳みをする際は、アームサポート、フットレッグサポートを持たないでください。
	調節によっては車いすが後方へ転倒する危険性があります。 必要に応じて転倒防止バーを使用してください。
	すべてのネジがしっかりと固定された状態で使用してください。

	この表示は、調節や使用時のアドバイスを記載しています。

1．概 要

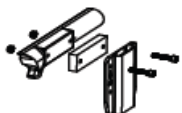
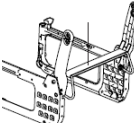
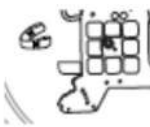
取扱説明書の中に、取り外してお使いいただける『ユーザーマニュアル』が入っています。

使用する工具

六角レンチ
３、４、５、６mm

スパナ
８、１０、１３mm

ソケットレンチ
１９、２４mm

プラスドライバー
PH１（１番）

2．各部名称

1． 介助ハンドル	10．バックサポートカバー
2． バックサポート	11．バックサポートシート
3． ハンドリム	12．メインホイール
4． ブレーキ	13．クロスフレーム
5． クイックリリースハブ	14．座面シート
6． サイドフレーム	15．レッグサポート
7． フロントフォークハウジング	16．フットサポート高さ調節ネジ
8． フロントフォーク	17．フットサポート
9． キャスタ	18．転倒防止バー

３．標準仕様

座面高さ	前座高：37.5cm-44.5cm 後座高：36cm-44cm（20 インチ） 38cm-44cm（22 インチ）
座面角度	前傾：３°まで（前後差３ｃｍ） 後傾：９°まで（前後差６ｃｍ）
キャスタ	５インチ
フロントフォーク	ショートフォーク
メインホイール	20 インチ/22 インチ（ノーパンクタイヤ）
ハンドリム	アルミニウム
キャンバーアングル	２°
座面シート	奥行：４２ｃｍ
バックサポート	高さ：37.5/40/42.5/45cm 角度：92°-98° 背張り調整付き
フットレッグサポート	高さ調整/角度調整付き 取り外し可能
アームサポート	高さ調整付き 取り外し可能

４．オプションパーツ

パーツ名称	イラスト	概要
レッグサポート ワイド		標準タイプよりフットサポートを前方に 設定できます。
レッグサポート ショート		短いタイプのレッグサポートです。フットサポート ショートと組み合わせて使用します。
固定式 レッグサポート		レッグサポートを固定できるタイプです。
エレベーティングレッグサポート		角度調節できるレッグサポートです。 （フットサポートは付属していません）
フットサポート ショート		標準より８ｃｍ短いフットサポートです。
フロントフォークワイドアタッチメント	＋6cm	左右のキャスタ間の距離を６ｃｍ広げることが できます。
折り畳み式 延長ブレーキ		ブレーキを延長できます。 移乗の際に邪魔にならないように、折り畳む事が 可能です。
Ｌ字延長ブレーキ		ブレーキを握れない方でも手の平でブレーキを かけることができます。
アームサポート ショート		パッドの長さが２５ｃｍと短いタイプです。 （通常仕様：３５ｃｍ）
アームサポート カバー		ウレタンパッドが入った、アームサポート用カバー です。痛みの軽減に役立ちます。

パーツ名称	イラスト	概要
片マヒ用 アームサポート		角度の調節ができるアームサポートパッドです。
拡張キット		左右のアームサポート間の距離を広げることができます。
テーブル		アクリル製のテーブルです。座幅によりサイズが異なります。
座面シート エクステンション		座面シートの奥行を延長する際に使用します。
カフサポートカバー		エレベーティングレッグサポート用のカバーです。
ヒールストラップ		踵のサポートに使用します。
フットサポート ロング		フットサポートを広くすることができます。
ウェッジ クッション		身体のサポートが向上します。 長さ１５ｃmと３０ｃmの２種類があります。
杖ホルダー		レボシリーズ専用の杖ホルダーです。
工具セット		六角レンチ：3/4/5/6mm スパナ：8/10/13/19/24mm メジャー（水準計付き） プラスドライバー

5．セッティング

前座高の調節

前座高は下記の調節が可能です。

・フロントフォークハウジングの高さと角度

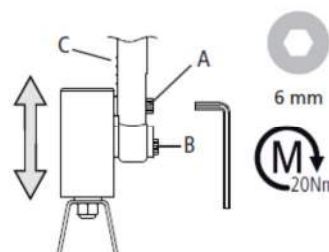
・キャスタの軸位置

・フロントフォークの交換

・キャスタの交換

 注意　座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

フロントフォークハウジングの高さ調節

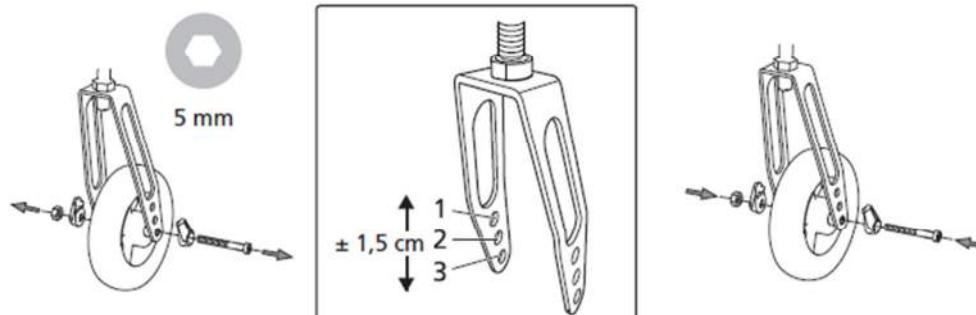
右図のＡとＢのネジを緩めると、フロントフォークハウジングを上下にスライドさせ高さ調節ができます。Ｃのメモリを参考に、両サイドの高さを揃えてください。

フロントフォークハウジングの角度を調節し、ネジを締めてください。

（詳細は、「フロントフォークハウジングの角度調節（９ページ）」をご確認ください）

 座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

キャスタの位置調節

キャスタの位置を変えることで、全座高を調節することができます。

（調節範囲の詳細は、「前座高の組み合わせ一覧（８ページ）」をご確認ください）

フロントフォークを交換し、前座高を調節する

フロントフォークの種類により、前座高の調節範囲が異なります。
調節範囲の詳細は、「前座高の組み合わせ一覧」をご確認ください。

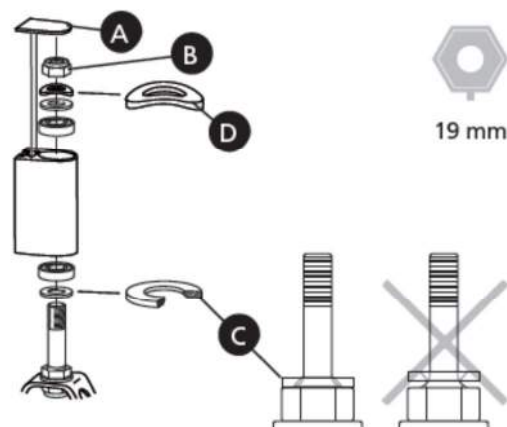
 注意　座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

前座高の組み合わせ一覧

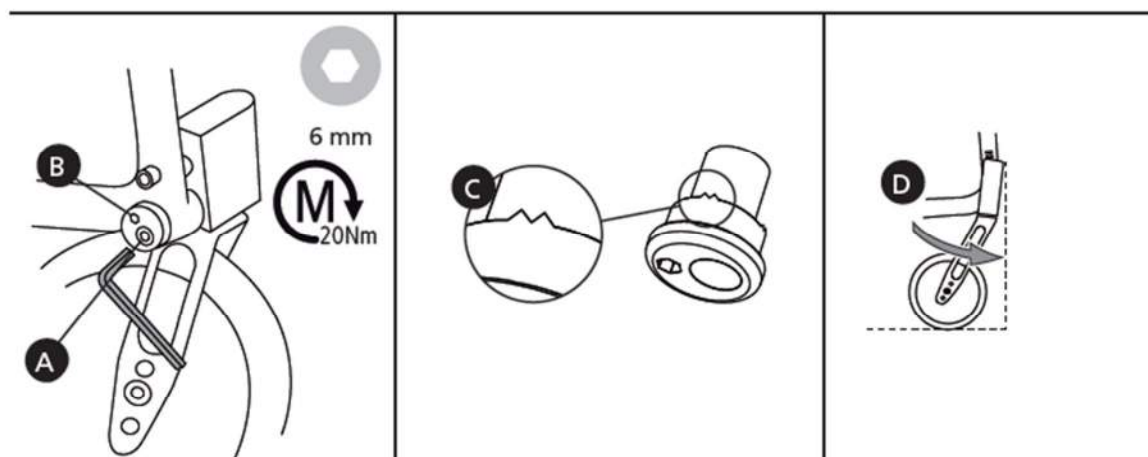
	車軸位置	キャスタサイズ	エクストラショートフォーク			ショートフォーク（標準）			ミディアムフォーク		
			XS1	XS2	XS3	S1	S2	S3	M1	M2	M3
ローフロントフォークハウジング	G	4″*	-	34-38	35,5-39,5	-	-	-	-	-	-
	A-F	5″	-	-	-	36-40	37,5-41,5	39-43	-	-	-
		6½″	-	-	-	-	-	41-45	-	-	-
フロントフォークハウジング	A-F	5″	-	-	-	37,5-41,5	39-43	40,5-44,5	42-46	43,5-47,5	45-49
		6″	-	-	-	-	40-44	41,5-45,5	43-47	44,5-48,5	46-50
		6½″	-	-	-	-	41-45	42,5-46,5	44-48	45,5-49,5	47-51
	A-C	8″**	-	-	-	-	-	-	-	47-51	48,5-52,5

＊利用者の体重上限：１００ｋｇまで
前座高の設定条件：座面角度は後傾９°まで（前後差６ｃｍ以内）、前傾３°（前後差２ｃｍ以内）
＊＊メインホイールの車軸位置は４－６のみ使用可能。レッグサポートワイドのみ使用可能です。
フロントフォークとキャスタが利用者の足や車いすに接触しないよう注意してください。

フロントフォークの組み立て

①Aのカバーを外しBのナットを外し、
　ベアリング、ワッシャーを取り外してください。
②新しいフロントフォークにCのワッシャーを
　取り付けます。
③図の順番の通りにベアリング、ワッシャーを
　付け、一番上にDのワッシャーを置きBの
　ナットを締めます。
④ナットが動かなくなるまで締めてから、1/2～
　１回転、Bのナットを緩めてください。
　Dのワッシャーが機能し、フロントフォークに
　ガタツキが無いことを確認してください。
⑤最後にAのカバーを取り付けます。

フロントフォークハウジングの角度調節

車いすの駆動にとって、フロントフォークハウジングの角度調節は重要です。

①Aのネジを反時計回りに２回転緩め、Cのパーツを動かせるようにします。
②六角レンチ（６mm）をBの穴に入れ回転させ、フロントロークハウジングの角度が
　床面に対して垂直になるように調節します。
　Dのように角度を動かし、９０°になった位置でAのネジを締めます。

 注意　座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

角度調節の際は、角度計や水準計の使用をお勧めします。角度計等が無い場合には、ドアなど垂直の物を基準にすると調節しやすくなります。

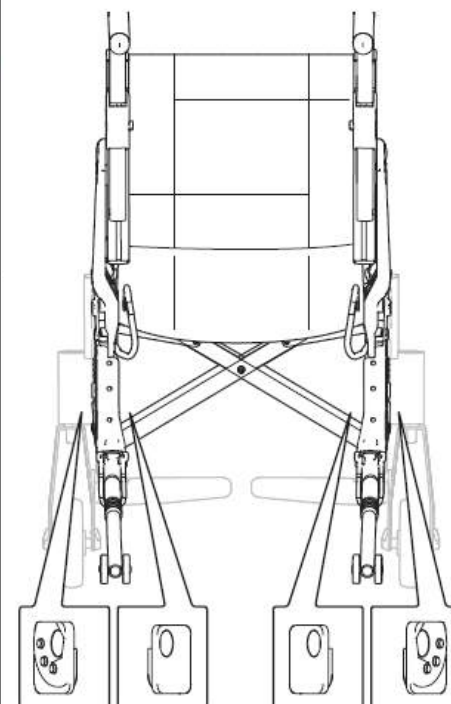
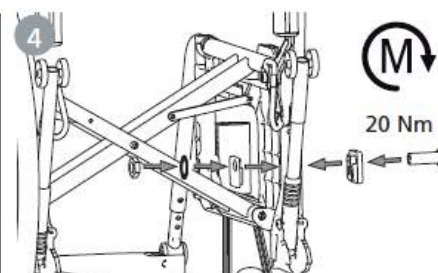
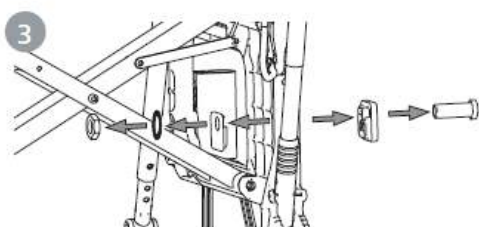
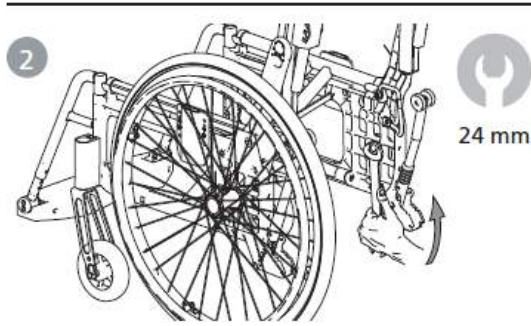
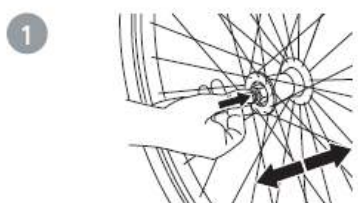
後座高の調節

後座高は下記の調節が可能です

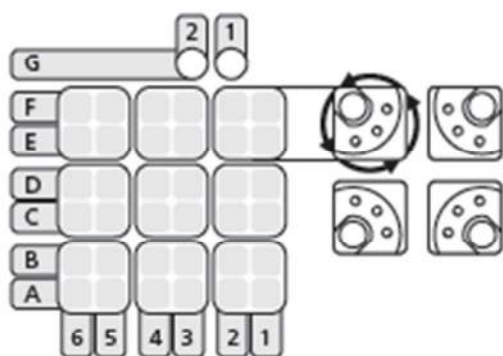
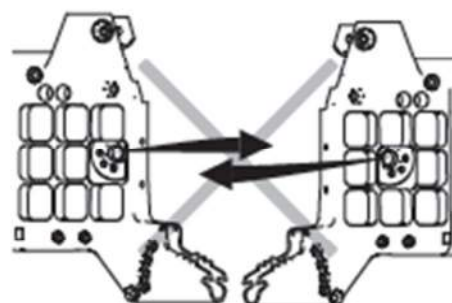
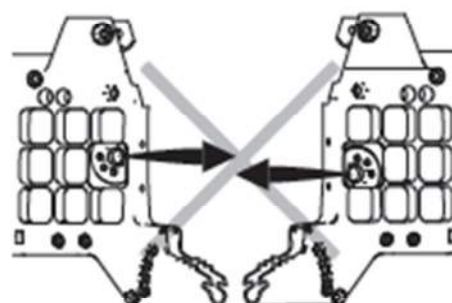
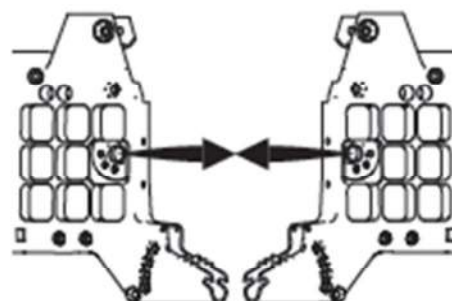
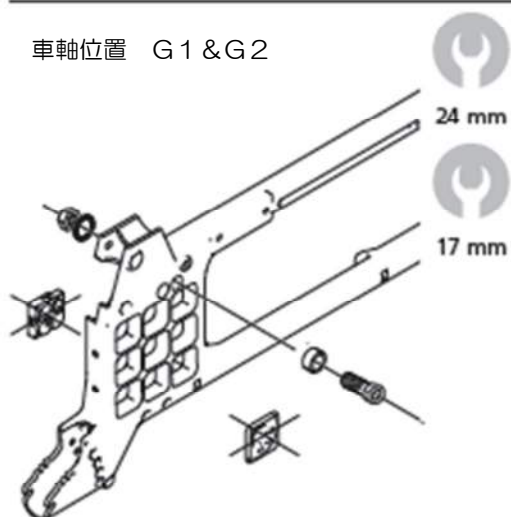
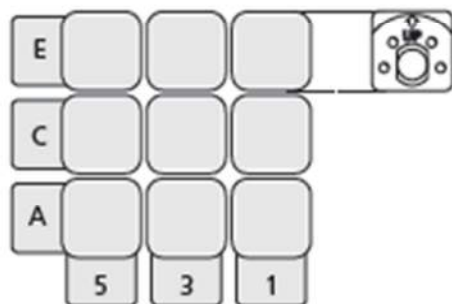
・メインホイールの車軸位置を変える
・キャンバーワッシャーの向きを変える
・メインホイールのサイズを変更する

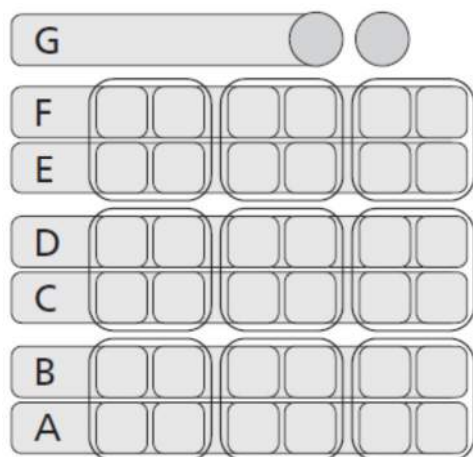
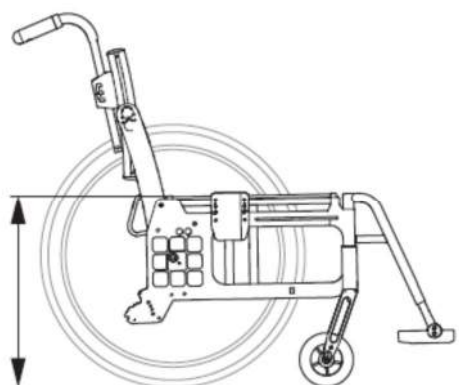
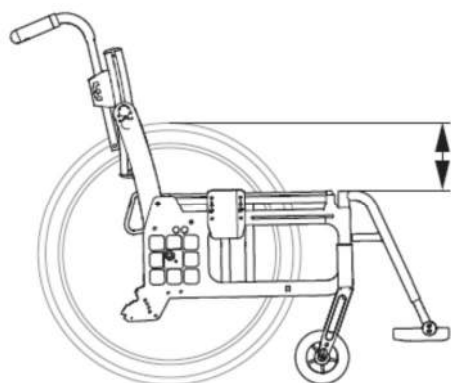
注意	座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

メインホイールの車軸位置やサイズを変更し、後座高を調節する

①メインホイールは真ん中にあるボタンを押しながら抜くと、フレームから外すことができます。
②ナットをスパナ（２４mm）を使用し、外します。
③キャンバーワッシャーの取り付け位置を、希望する箇所に変更し、ナットで固定してください。
　左右の車軸位置は同じ位置に設定してください。

注意	座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

警告　取付けの際は、車軸位置が正しくセッティングされているか、確認してください。

 警告　メインホイールを取り付けた際に、ロックされていることを確認してください。

車軸位置　G１&G２

キャンバーワッシャー（０°）の設定位置

メインホイールの軸位置と後座高の寸法

メインホイールの軸位置

Ａ：後座高

Ｂ：座面シートとメインホイール上端の寸法

	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：G	２０インチ	34cm	16.5cm
	２２インチ	36.5cm	19.0cm
	２４インチ	39cm	21.5cm

	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：F	２０インチ	36cm	14.5cm
	２２インチ	38.5cm	17.0cm
	２４インチ	41cm	19.5cm

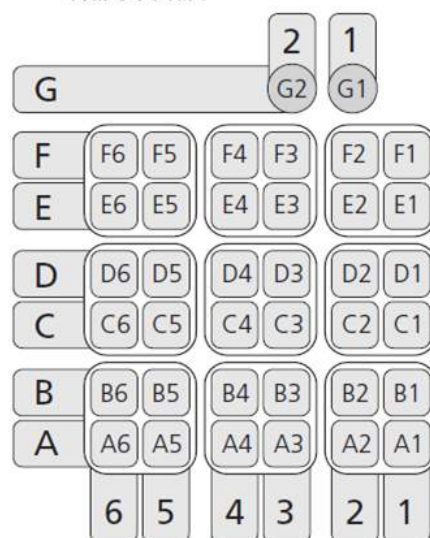
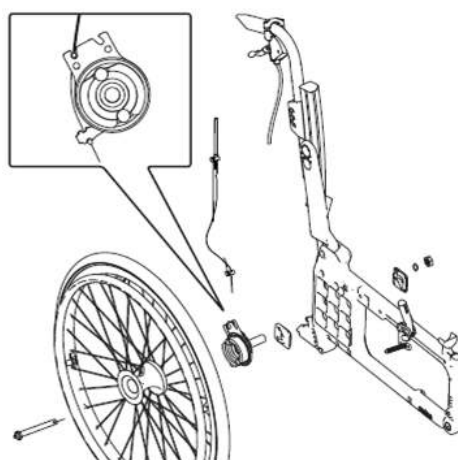
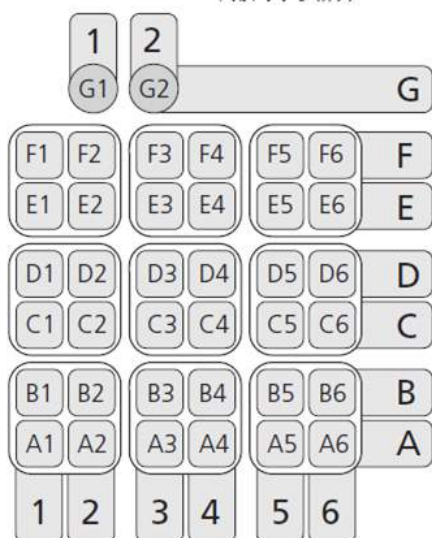
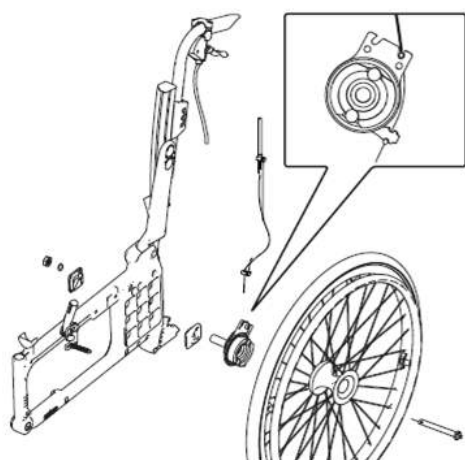
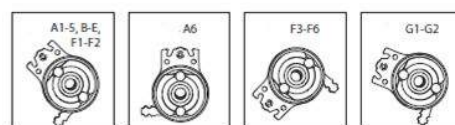
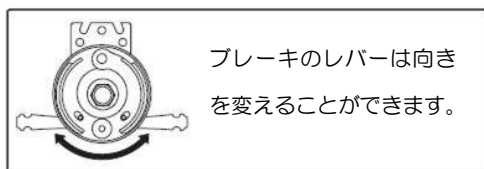
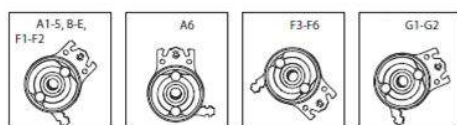
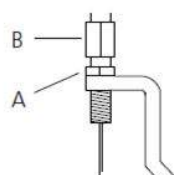
	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：E	２０インチ	38cm	12.5cm
	２２インチ	40.5cm	15.0cm
	２４インチ	43cm	17.5cm

	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：D	２０インチ	40cm	10.5cm
	２２インチ	42.5cm	13.0cm
	２４インチ	45cm	15.5cm

	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：C	２０インチ	42cm	8.5cm
	２２インチ	44.5cm	11cm
	２４インチ	47cm	13.5cm

	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：B	２０インチ	44cm	6.5cm
	２２インチ	46.5.cm	9.0cm
	２４インチ	49cm	11.5cm

	メインホイールサイズ	A	B
軸位置：A	２０インチ	46cm	4.5cm
	２２インチ	48cm	7.0cm
	２４インチ	51cm	9.5cm

キャリパーブレーキ付きの軸位置設定

ブレーキは一覧を参考に取り付けの向きを調節してください。

【キャリパーブレーキの調節】

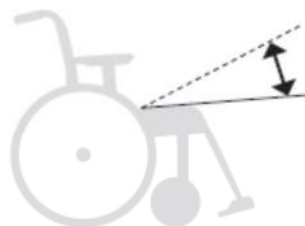
ナットＡを緩めてください。

調節用ネジＢを回転させて、キャリパーブレーキの効きを調節してください。

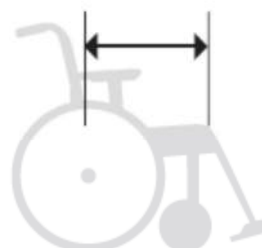
調節後はナットＡを締めて固定してください。

座面角度

座面の角度は、前座高と後座高によって決まります。

座面の角度を変更した際には、
・フロントフォークハウジングの角度を
　調節してください。
・バックサポートの角度を調節してください。

座面シートの奥行（オプション）

座面シートの奥行（長さ）は座面シートの前端部分を
前後にスライドして調節することができます。

レボは座面シートの奥行をより長く設定することが
可能です。
調節方法の詳細は、バックサポートの調節をご確認ください。

⚠ 注意	座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを 確認してください。

シートの快適性

座面の高さ、座面角度、バックサポートの角度を調節し、バックサポートカバーを適切に設定する
ことで、快適な座り心地を得ることが可能です。
詳しくは、ユーザーマニュアルの「快適性について」をご覧ください。

6、レボ　ユーザーマニュアル

▲ 注意	ユーザーマニュアルは切り離して、車いすに付属してください。 車いすの利用者にとって、重要な情報を記載しています。

ユーザーマニュアル

目次

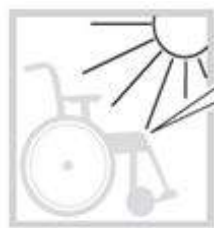
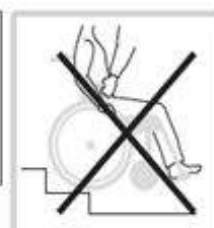
サインと警告について

フック固定位置

アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください

レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください

転倒防止バーを使用してください

指の挟み込みに注意してください

やけどする危険があるため、車いすを直射日光が当たる場所に放置しないでください

レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください

転倒防止バーを使用してください

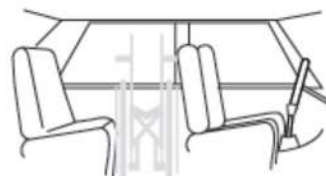
 注意　座面の高さ、重心位置、バックサポートの角度や背張り調節をした際には、必ず転倒防止バーが機能することを確認してください。

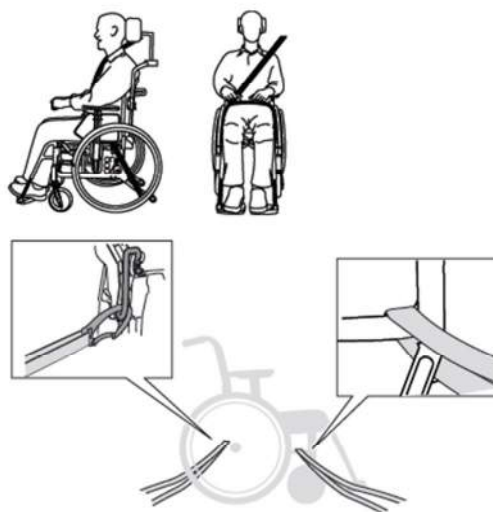
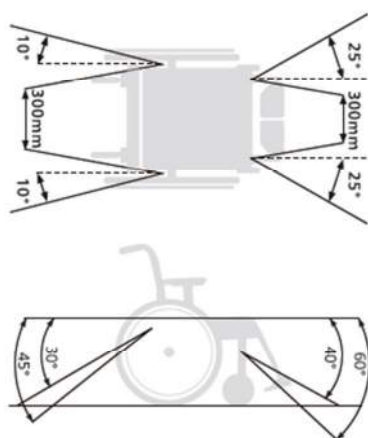
ユーザーマニュアル

車で移送する場合

レボシリーズは ISO7176-19 に規定されるテストが行われています。
（テストと保証の項目をご確認ください）

【推奨する方法】

1、利用者は乗り物の席に移動し、シートベルトを使用してください。車いすは後部座席の間などに入れ、倒れないように固定します。

車いすを後部座席に置く場合、動かないように注意し、可能であればシートベルトで固定してください。

2、車いすはこのマニュアルに沿って前向きに乗車してください。車いす利用者は車のシートベルトを使用してください。これがテストで許可された方法です。

警告

・安全の為、後方の固定用フックを使用してください。
・メインホイールやバックサポートで車いすを固定しないでください。

注意

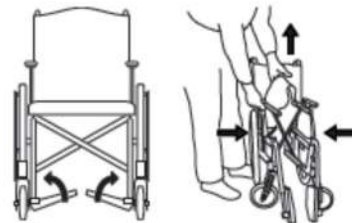
・ブレーキをかけてください。
・転倒防止バーを下に下げてください。
・工具を使用せずに外せるオプションパーツは取り外してください。
・ヘッドサポートを正しく設定してください。
・バックサポートの高さは利用者の肩の位置まで上げてください。
・クロスブレースの使用をお勧めします。
・メインホイールのハンドリムを付けてください。

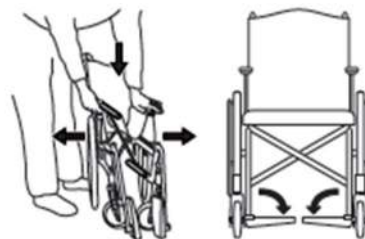
３、特殊な交通機関の車では、進行方向と逆向きに車いすを固定する場合があります。この場合、車が走行中の急発進など突然の動きにも対応できるようにしておく必要があります。
スピードや方向の変化があっても、利用者の障害に関係なく安全が確保されていなければなりません。

⚠ 注意	・ブレーキをかけてください。 ・転倒防止バーを下に下げてください。 ・工具を使用せずに外せるオプションパーツは取り外してください。 ・バックサポートの高さは利用者の肩の位置まで上げてください。 ・ヘッドサポートを正しく設定してください。 ・ポジショニングベルトの使用をお勧めします。

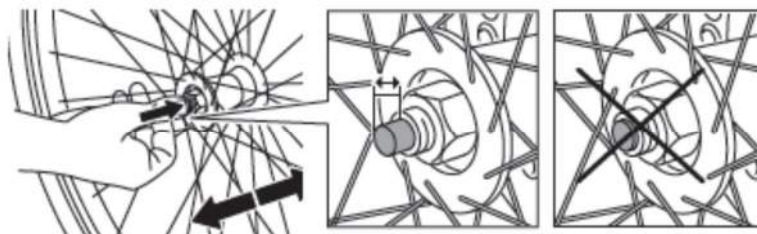
操作方法

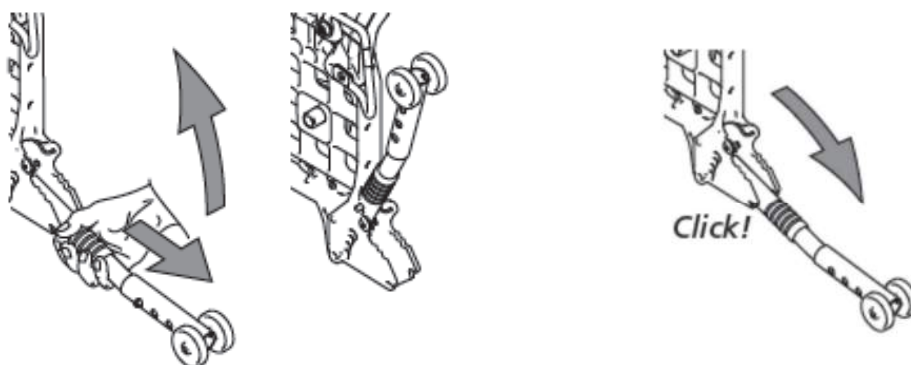
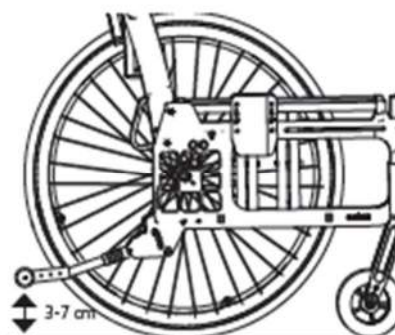
車いすの折り畳み方法

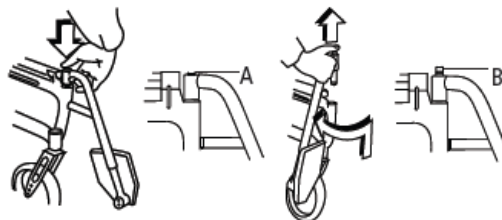
・クロスブレースなどは取り外します。
・フットサポートを跳ね上げてください。
・座面を引き上げて、車いすを折り畳みます。

車いすの広げ方

・片側のフレームを押し、手で広げてください。
・指を挟む危険がありますので、座面とフレームの間に手を入れないでください。
・フットサポートを下します。

ユーザーマニュアル

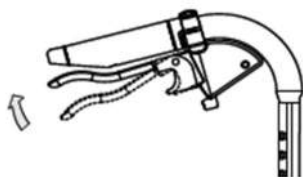
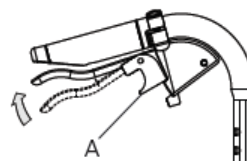
メインホイールのクイックリリース

組立ての際に、メインホイールの中央にあるクイックリリースのボタンが出ていることを確認してください。ご使用の前には、必ずメインホイールがロックされていることを確認してください。

転倒防止バー

転倒防止バーは引き上げることができます。
転倒防止バーを下した時に、ロックが機能していることを確認してください。

車いすの調節を行った際は、必ず転倒防止バーが正しく機能することを確認してください。
調節が必要な際には、ご購入された業者へご相談ください。

<u>レッグサポート</u>

レッグサポートは取り外しやスウィングイン
スウィングアウトが可能です。
固定式レッグサポートは赤いボタンＡを押すと
取り外しや取り付けが可能となります。

固定できないレッグサポートを使用する際には、レッグサポートを座面の下に入れるか取り外して、フレームを持って持ち上げてください。

固定式レッグサポートを使用して車いすを持ち上げる際には、レッグサポートが固定されていることを確認してください。

<u>介助ブレーキの操作方法</u>

ブレーキレバーを矢印の方向に
引いている間ブレーキがかかります。

ブレーキレバーを矢印の方向に引いて
ボタン A を押しブレーキレバーをロック
するとパーキングブレーキがかかります。

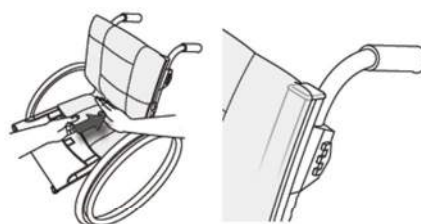
ユーザーマニュアル

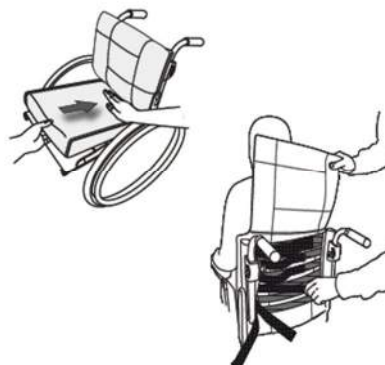
快適に座るためのセッティング

快適な座面

快適に座ることは個々で異なります。以下は、セッティングする際に考慮すべき点を説明しています。車いす用のクッションを選択してください。快適性とは別に、安定性があり自由に動きやすいクッションを選びましょう。クッションは圧分散機能もそれぞれで異なります。

バックサポートの調節は、角度、高さと形状の組み合わせです。その為、バックサポートカバーを調節するときは、バックサポートの角度と高さの調節が必要となります。

バックサポートカバー

シートクッション

・奥行が正しいか確認してください。
・クッションは後ろから合わせてセットしてください。
・シートクッションの長さを測り、適切な大きさにカットしてください。
・シートクッションのカバー内側にアンカーシートを入れると安定性と快適性が向上します。

バックサポートの背張り調節

・バックサポートの張り調節は利用者が車いすに座っている状態で行ってください。
・利用者はできるだけ奥深くにお尻を入れて座ってください。
・腰部下のベルクロを使って、骨盤のサポートを行います。
・上部のベルクロを使用して、体幹へのサポートとバランスを調節します。
・ベルトの張り調節を使用し、利用者の自然な背中のカーブに合わせます。

注意 座面の高さを調節した際には、転倒防止バーが機能することを確認してください。

注意 背張り調節のベルクロを締めすぎると、車いすが適切に開かなくなりますのでご注意ください。

バックサポートの角度

バックサポートの形状を調節する際は、バックサポートの角度も調節する場合があります。

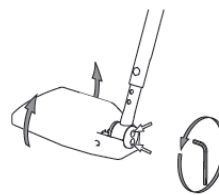
ユーザーマニュアル

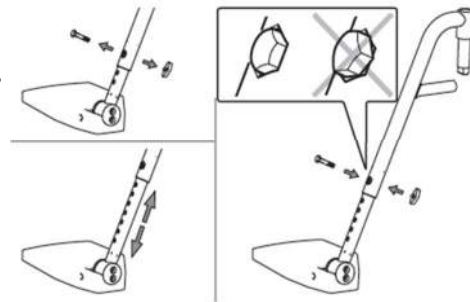
フットサポート

足がサポートされ、大腿部がクッションに触れるあたりまで
高さを調節してください。
屋外で使用される場合は、地面から４～５ｃｍ離してください。

 警告　フットサポートの上に立たないでください。転倒の危険があります。

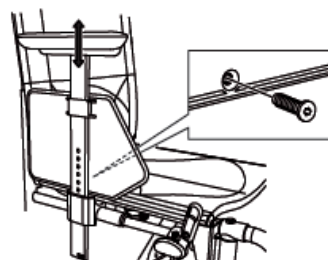
フットサポート角度調節

・六角レンチ（５ｍｍ）を使い、フットサポート
　角度を調節できます。

フットサポートの高さ調節

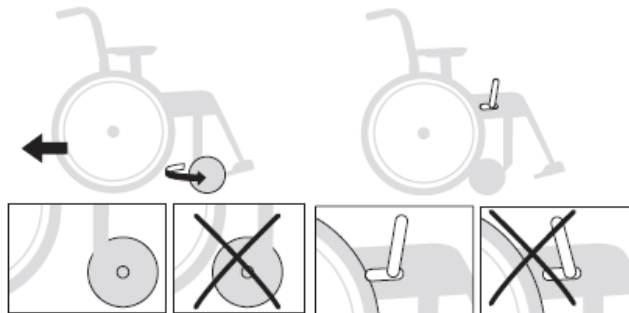
・固定している蝶ネジを緩めボルトを抜いてください。
・高さを合わせてから蝶ネジを締めて固定してください。

ヒールストラップ

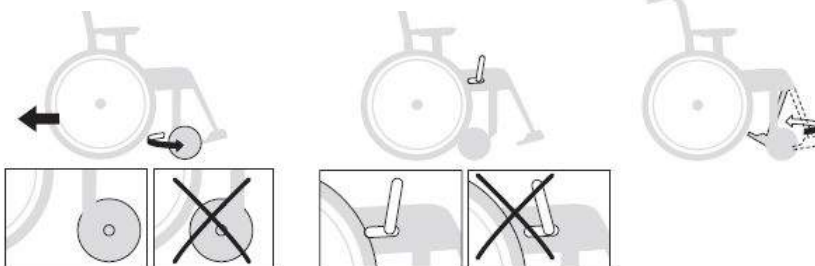
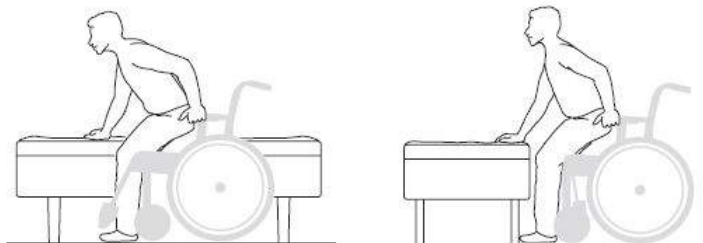
・フットサポートに足が乗るように、長さを
　調節してください。

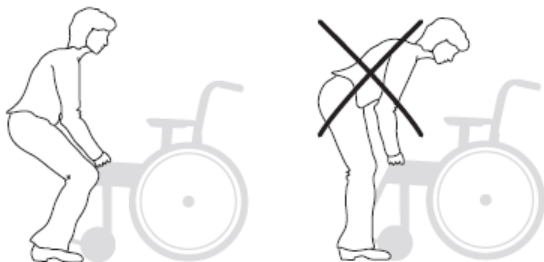
アームサポート高さ調節

・スカートガードの内側にあるネジを緩めて
　ください。
・利用者に合わせて高さを調節し、ネジを
　締めてください。
・低い位置よりも高い位置にアームサポートを
　設定することで、背中にかかる圧も減少します。

ユーザーマニュアル

駆動テクニックと操作方法

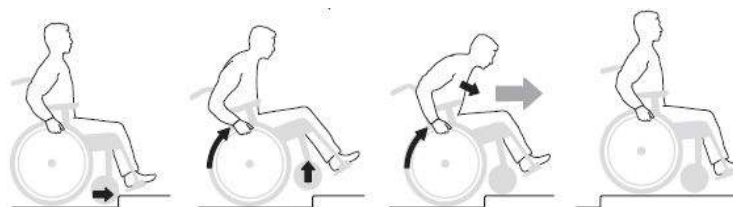
駐車

警告　利用者が乗っているときに、スロープや坂道で駐車しないでください。

移乗

移乗を行う際は、アームサポートを外してください。

警告　フットサポートの上に立たないでください。転倒の危険があります。

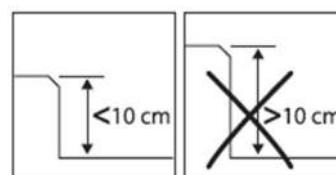
車いすを持ち上げる場合

・介助ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。
・固定できないレッグサポートは座面の下に入れるか取り外し、フレームの前方を持ち上げてください。

ユーザーマニュアル

以下の図は、駆動テクニックの原則と段差等の障害物の乗り越え方を表しています。

<u>前向きに上る</u>
この方法は経験のある方に推奨します。
転倒防止バーは上げておいてください。

<u>後ろ向きに上る</u>
この方法はフットサポートの高さと関連しますが、段差が低い時の方法です。
転倒防止バーは上げておいてください。

<u>前向きに下りる</u>
この方法は経験のある方に推奨します。
転倒防止バーは上げておいてください。

<u>後ろ向きに下りる</u>
この方法はフットサポートの高さと関連しますが、段差が低い時の方法です。
転倒防止バーは上げておいてください。

⚠ 注意	後ろ向きに下りる場合、後方へ転倒する危険性がありますのでご注意ください。

⚠ 注意	段差等を乗り越えた後は、転倒防止バーを下ろしてください。

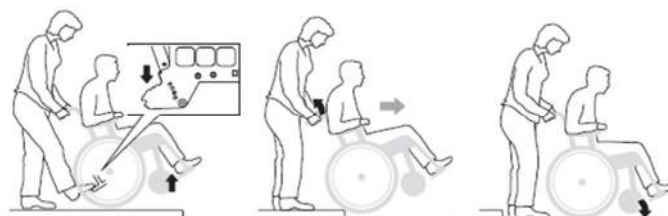
介助で前向きに上る

転倒防止バーが上がっていることを確認してください。

介助で後ろ向きに上る

転倒防止バーが上がっていることを確認してください。

介助で前向きに下りる

転倒防止バーが上がっていることを確認してください。

介助で後ろ向きに下りる

転倒防止バーが上がっていることを確認ください。

 注意　段差等を乗り越えた後は、転倒防止バーを下ろしてください。

ユーザーマニュアル

階段を上る

転倒防止バーが上がっていることを確認してください。エスカレーターを使用しないでください。
介助ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。
階段を利用する場合は、二人での介助をお勧めします。一人は後ろで介助ハンドルを握り、
もう一人は正面でサイドフレームを持ってください。

階段を下りる

転倒防止バーが上がっていることを確認してください。エスカレーターを使用しないでください。
介助ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。
階段を利用する場合は、二人での介助をお勧めします。一人は後ろで介助ハンドルを握り、
もう一人は正面でサイドフレームを持ってください。

傾斜の上り下り

ブレーキを使わず、ハンドリムでスピードを調節してください。
可能な限り真直ぐに進み、傾斜の途中で方向転換はしないでください。不安な場合は、周囲に介助を求めてください。

上り：前傾姿勢でバランスを取ってください。　下り：後傾姿勢でバランスを取ってください。

⚠ 注意　段差等を乗り越えた後は、転倒防止バーを下ろしてください。

ユーザーマニュアル

メンテナンス

メインホイール：クイックリリースの軸をきれいにしてください。
キャスタ　　　：キャスタの軸をきれいにしてください。
フレーム　　　：洗剤を使用し洗浄してください。研磨剤が入った洗剤等は使用しないでください。
pH５～９もしくは、７０％の消毒液を使用してください。洗剤等使用した際は、
水で洗浄後乾燥させてください。
バックサポートカバー：ラベルに記載された方法で洗浄してください。

ご不明な点は、ご購入の事業者もしくは弊社までお問い合わせください。

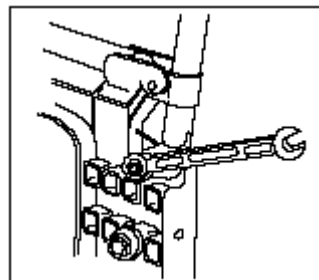
トラブルシューティング	
車いすが真っ直ぐに進まない	・タイヤの摩耗を確認してください。 ・フロントフォークハウジングの確認と調節を行ってください。 ・左右のフロントフォークハウジングの高さを揃えてください。 ・利用者の体重が左右に均等に乗っているか確認してください。 ・漕ぐ力が片側に偏っていないか、確認してください。
車いすを動かすと重い	・タイヤが摩耗を確認してください。 ・メインホイールがきちんと固定されているか確認してください。 ・キャスタの軸にゴミがないか、確認してください。 ・メインホイールの軸位置を調節し、バランスを調節してください。
車いすを回転されると重い	・タイヤが摩耗を確認してください。 ・フロントフォークの固定を締めすぎていないか、確認してください。 ・フロントフォークハウジングの角度を確認してください。 ・キャスタの軸にゴミがないか、確認してください。 ・メインホイールの軸位置を調節し、バランスを調節してください。
ブレーキが効かない	・タイヤの摩耗を確認してください。 ・ブレーキを調節してください。
メインホイールががたつく	・クイックリリース軸の長さを調節してください。
メインホイールの取り外しが固い	・クイックリリース軸をきれいにしてください。 ・クイックリリース軸の長さを調節してください。
キャスタがふらつく	・フロントフォークの締め付けを確認してください。 ・フロントフォークハウジングの確認と調節を行ってください。 ・メインホイールの軸位置を調節し、バランスを調節してください。
車いすの折り畳みが固い	・背張り調整を締めすぎていないか、確認してください。 ・クロスブレースにゴミなど汚れがないか、確認してください。
全体	・ネジ、ナット、ボルトに緩みがないか、確認してください。

７．各部の調節

バックサポートの角度調節

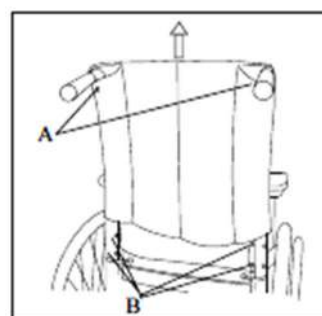
１、スパナ（１３mm）を使用し、ナットを緩めてください。

２、バックサポートの角度は、９２°-９８°の範囲で調節可能です。

３、ナットを締めて、角度を固定してください。

 注意 バックサポート角度を調節した後は、転倒防止バーが機能することを確認してください。

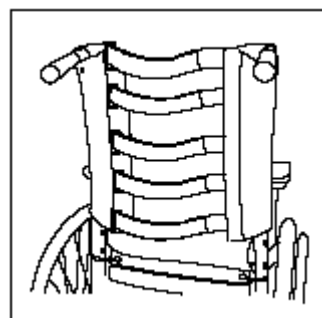
バックサポートの高さ調節

バックサポートの高さは、座面から37.5・40・42.5・45cm に設定可能です。A のネジを外し、バックサポートを引き上げ、B のネジを外して高さを調節します。

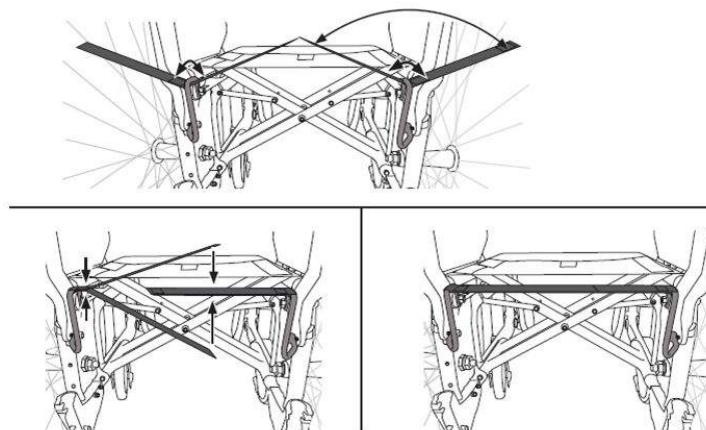
このとき、両方の高さが同じになるように注意してください。

バックサポート張り調整機能

背張り調整機能付バックサポートは、５本のベルクロストラップとカバーがついています

各１本ずつ張りの調整ができ、使用者の背中の形状に合わせる事が出来ます。

バックサポートカバーは奥深くまで座ることができるように、臀部が入るスペースを作った状態でバックサポートに取り付けてください。

 注意 ベルクロストラップを締めすぎると、車いすが広がらなくなる恐れがあります。

延長用シート（オプションパーツ）の取り付け方

座面の奥行を長くすることができます。

ブレーキの調節

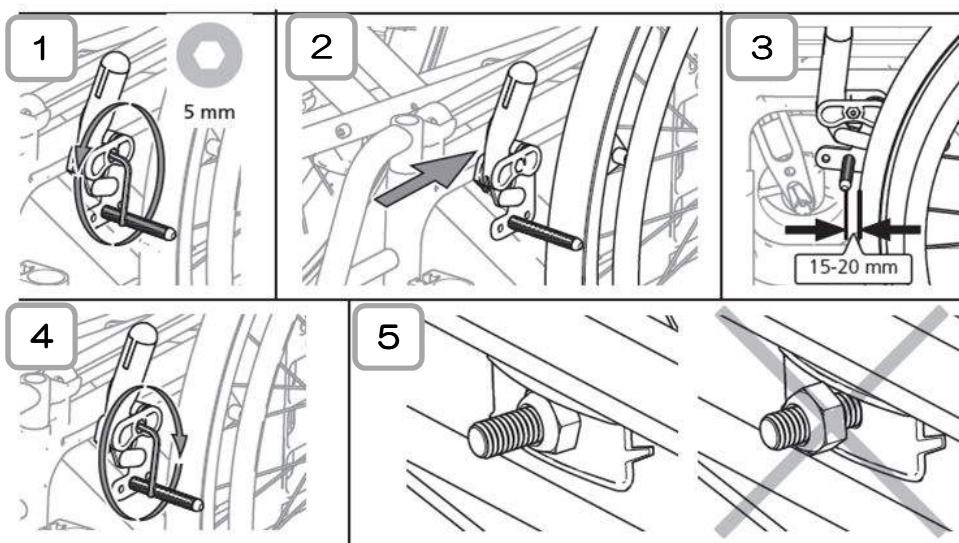
ブレーキは必ず固定してください。

１、六角レンチ（５mm）を使用し、ネジを緩めてください。

２、ブレーキ位置を調節します。

３、ブレーキパッドはブレーキがかかっていない状態で、１５−２０mmタイヤから
　　離してください。

４、ブレーキがタイヤの溝に対して真っ直ぐになっていることを確認し、ネジを締めます。
　　固定後、ブレーキの効きを確認してください。

５、内側のナットが図のように金属のプレートにきちんと填まっていることを確認してください。

⚠ 注意	ブレーキは駐車の為に使用します。スピードを減速するために使用しないでください。

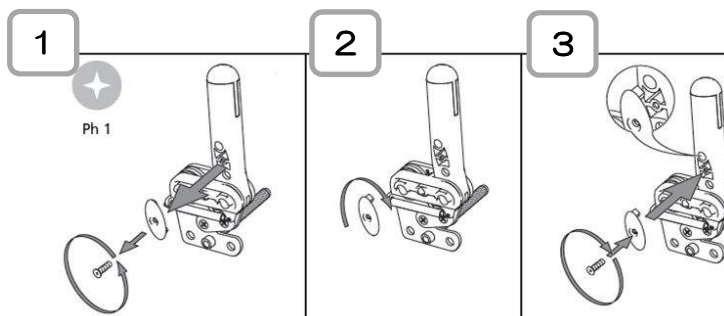
車軸位置を前方に設定すると、レッグサポートをスイングアウトした場合、ブレーキレバーに干渉し、ブレーキを解除してしまう可能性があります。このような状況を避けるため、ブレーキレバーに、遊びを設けることができます。

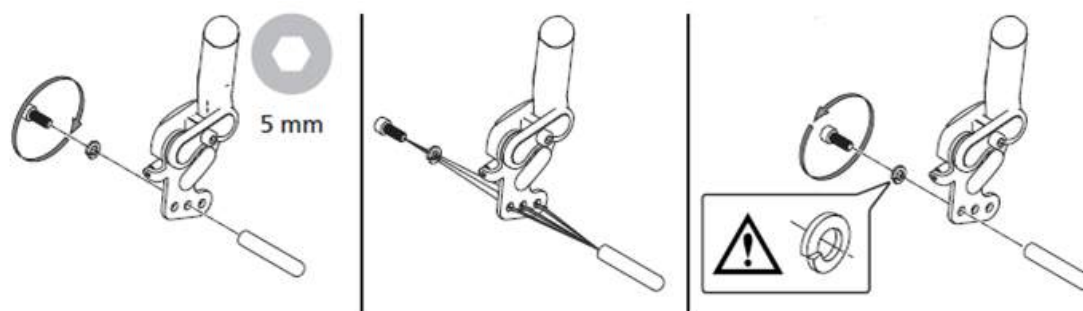
１、ブレーキレバーの内側にあるネジを外します。

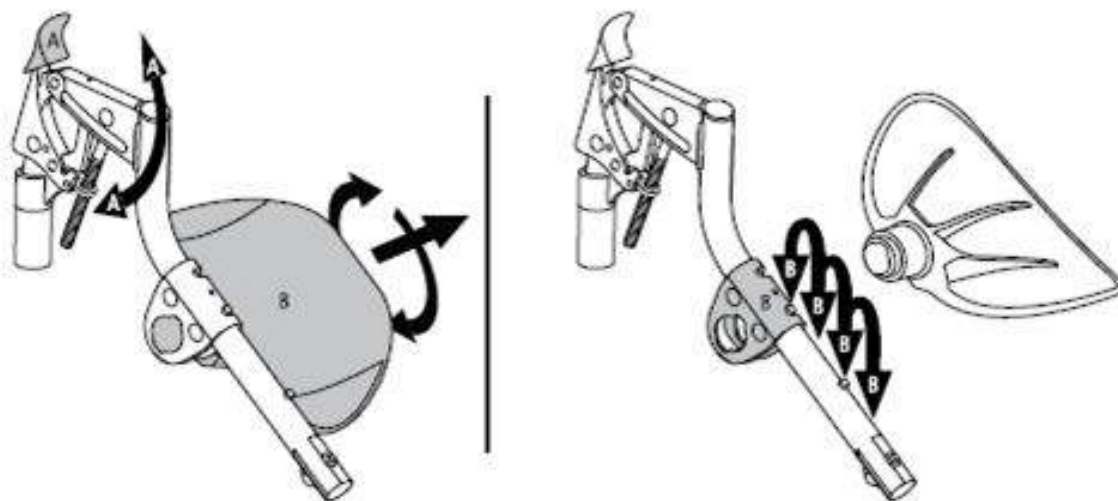
２、楕円形のプレートを取り外し、１８０°回転させます（プレートの内側にある突起が上の穴に
　　入るようにします。

３、ネジを締め、プレートを固定します。

1　2　3

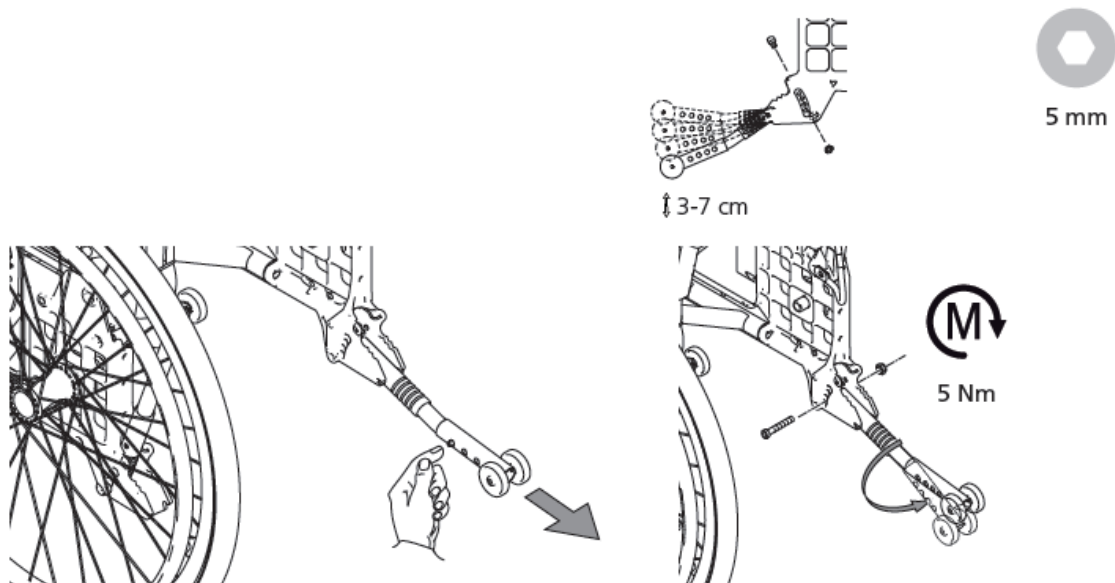
Ph 1

ブレーキパッドの位置の調節

必要に応じて、ブレーキパッドの取り付け位置を調節してください。

エレベーティングレッグサポートの調節（オプションパーツ）

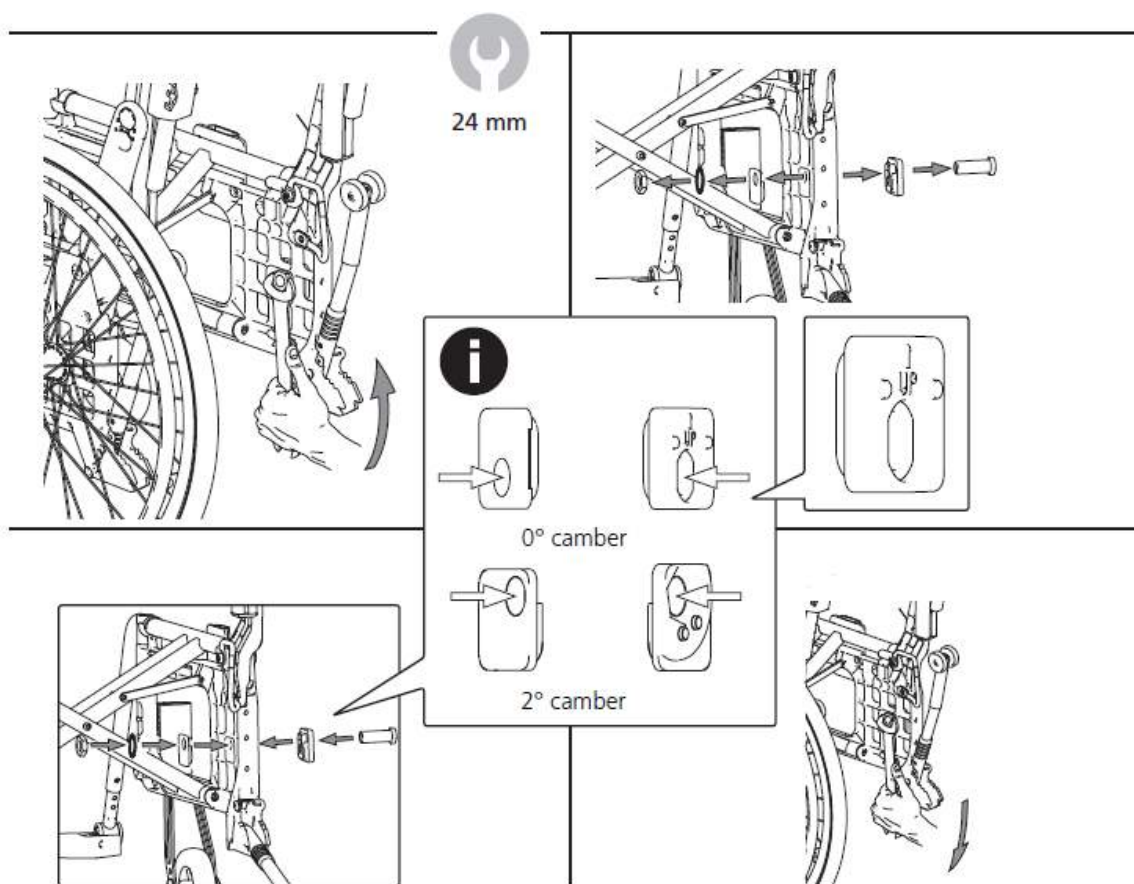
Ａのレバーでエレベーティングの角度を調節できます。
Ｂのカフサポートを回転させると取り外すことができます。
カフサポートを固定している金属製のブラケットの位置を調節することで、
カフサポートの位置を変更できます。

⚠	警告	フットサポートの上に立たないでください。転倒の危険があります。

⚠	注意	固定できないレッグサポートを使用する際には、レッグサポートを座面の下に入れるか取り外して、フレームを持って持ち上げてください。

転倒防止バー

転倒防止バーは高さ、角度、長さの調節が可能です。

⚠	注意	座面の高さ、メインホイールの位置、バックサポート角度や背張り調節を行った後は、転倒防止バーが機能することを確認してください。

キャンバー角度の変更（オプションパーツ）

メインホイールのキャンバー角度は、本体フレームに取り付けるキャンバーワッシャーを交換することで、変更することが可能です。
通常の商品には、２°のキャンバーワッシャーを使用しています。

⚠ 注意	調節を行った後に、メインホイールが固定されていることを確認してください。

車いすの重心位置の調節

車いすの重心位置は、メインホイールの位置を変えることで調整可能です。
メインホイールの位置を前方に設定すると操作性が向上しますが、後方へ転倒する危険性が高くなります。

	メインホイールの位置だけでなく、座面角度やバックサポートの角度を調節することでも重心の位置は変わります。

注意	メインホイールの位置を調節した際は、ブレーキの効きを確認してください。また、転倒防止バーが機能することを確認してください。

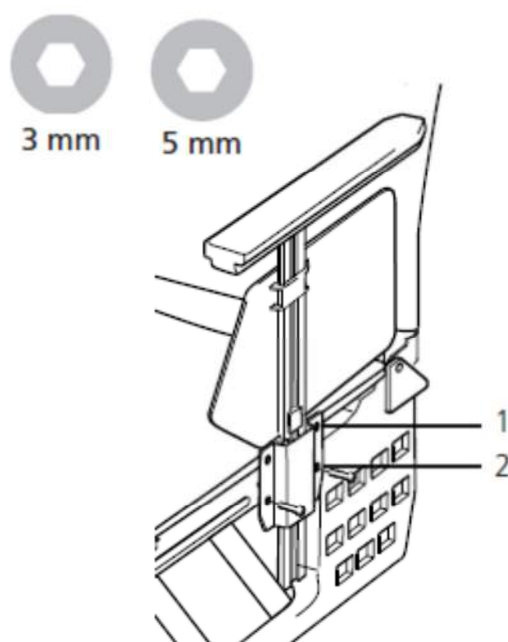
ハンドリムとメインホイールの間隔の調節

ハンドリムとメインホイールの間隔、スペーサーの取り付け位置を変えることで調節可能です。
六角レンチ（４mm）を使用し、ハンドリムを固定しているネジを外すことで、スペーサーを
取り外すことができます。

アームサポートの取り外しと高さ調節

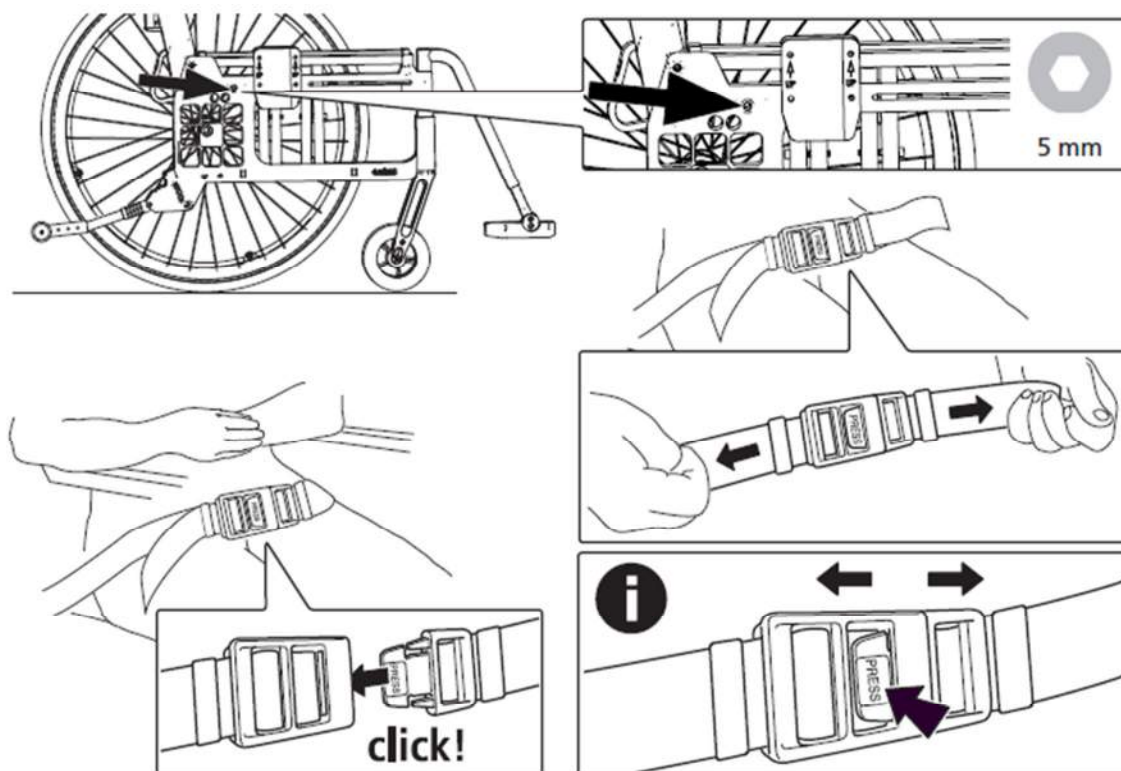
アームサポートは、２箇所で調節可能です。

アームサポートは１ｃｍ間隔で高さを調節することができます。
スカードガードの内側にあるネジを外し、高さを調節しネジを締めてください。

アームサポートアタッチメントの高さは２段階で設定できます。
ホジション１では、17～27.5cm に調整可能。（図参照）
ポジション２では、22～32.5cm に調整可能。（図参照）

 注意　アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。

注意　メインホイールのサイズによっては、アームサポートアタチメントをポジション１に設定した場合、アームサポートとメインホイールが接触する場合があります。

ポジショニングベルト（オプションパーツ）

ポジショニングベルトは長さの調節が可能で、プラスチックバックルで簡単に外すことできます。
車いすのフレームに空いている穴に、ネジで取り付けます。

注意	ベルトは車いす上での姿勢を確保する為のパーツです。車に乗った際にシートベルトの代わりに使用しないでください。

！	利用者の前滑りを止めるために使用すると、臀部や脚部周辺を圧迫し血流を阻害することがありますので注意してください。

8、製品仕様

機種	ﾌﾚｰﾑｻｲｽﾞ	座幅	全幅	前座高	後座高	座面奥行	ﾊﾞｯｸｻﾎﾟｰﾄ高さ	重量	利用者最大体重
レボ	ショートフレーム	35	56	34 - 51	34 - 51	42	37.5 - 45	約 17kg	135kg
		37.5	58.5						
		40	61						
		45	66						

９、サービスとメンテナンス

座面とバックサポートシート

座面シートは２枚重ねのポリエステル素材でできています。座面シートは座面フレームのエンドキャップのネジを外すと取り外すことができます。
バックサポートのシートは上部で固定しているネジを外し上に引き上げると、取り外すことが可能です。各シートの洗浄方法は、ラベルを確認してください。

メインホイール/キャスタ/フロントフォークハウジング

タイヤ	：タイヤの摩耗を定期的に確認してください。
スポーク	：スポークが緩むとホイールの歪みが発生します。緩みを確認した際にはスポークの調整を行ってください。
車軸位置	：必要に応じてゴミや汚れを取り除いてください。
ボールベアリング	：メンテナンスは不要です。
ハンドリム	：ハンドリムにキズ等がある場合には、けがをする恐れがあるので交換してください。
フロントフォークハウジング	：最適な操作性を維持する為、フロントフォークハウジングは垂直に取付けてください。フロントフォークが適切に取り付けられていることを確認してください。

ブレーキ

ブレーキはタイヤの状況によって効きが変わります。また、汚れ等によりブレーキの機能が低下することがありますので、車いすを使用する前には必ず確認してください。

フレームの洗浄

車いすをきれいに保つことは、利用者の快適性や車いすの耐久性にとって重要です。フレームには洗浄及び乾燥が簡易になるように水はけ用の穴があります。
pH５～９もしくは、７０％の消毒液を使用してください。洗剤等使用した際は、水で洗浄後乾燥させてください。

タッチアップペイント

小さなキズに使用できます。

その他

車いすに不具合があった場合、使用を中止しご購入の事業者または、弊社までご連絡ください。
修理が必要な場合には、純正パーツを使用してください。

１０、試験と保証について

クラッシュテスト

レボシリーズはISO7176-19に準じてテストされています。クラッシュテストはスウェーデンのTechnical Research Institute（テクニカル リサーチ インスティテュート）で行われました。このテストは、UNWIN_WWR/ATF/K/R,907523，Klippan Safety ABの３ポイントシートベルトを使用しています。

耐久性

車いすはEN12183の必要条件を満たすようテストされています。
車いすの耐久年数は、利用者の使用頻度、使用状況、メンテナンス状況により変化します。

表面処理の方法

塗装処理	：ポリエステル紛体塗装もしくは、EDコーティング
塗装していないアルミニウムパーツ	：陽極処理によるコーティング
塗装していないスチールパーツ	：亜鉛メッキ

CEマーク

レボシリーズはCEマークを取得しています。

保証

品質保証書を確認ください。

特殊な調整

取扱説明書に無い調節、メーカーが許可しないパーツの取付けや改造を行った場合、
保証対象外となります。特殊な対応について保証の有効性を確認したい場合には、
お問い合わせください。